

1 学校教育目標	
1 校訓『敬天愛人』と『熊本の心』を基本理念に、豊かな人間性と社会を生き抜く力を育み、社会と共に進化し続ける人材の育成と活気に溢れた学校づくりを目指す。	
(1) 校訓 『敬天愛人』	
(2) 綱領四条目 「慎思力行」「剛健進取」「儉素礼讓」「自制協同」	
(3) 建学の精神 「其手足を低き地に働かし、心を高き天に置けよ」	
【教育スローガン】	
なすことによって学ぶ～夢を目標に、挑戦・努力・継続～	

2 本年度の重点目標	
“認め ほめ 励まし 伸ばす”教育行動指標を踏まえた教育の実現 <人権尊重の精神に立った学校づくり> ○確かな学力の育成と個に応じた指導の充実 ○キャリア教育の推進と個性を活かす進路指導の充実 ○道徳教育の充実と命を大切に作る心の育成 ○指導方法等の工夫・改善(生徒にしっかりと寄り添い、一人一人を大切にした教育) ○一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の徹底と切れ目ない支援体制の構築 ○いじめの未然防止と対応の充実 ○学校の安全教育及び安全管理の充実 ○家庭教育の充実と地域・学校協働活動の推進	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校生活の充実と魅力発信	生徒が目標を持って学校生活を送っている	学校評価アンケートにおいて生徒が目標を持って学校生活を送ることについての回答割合を90%以上とする。	・授業や特別活動を充実させ、生徒が主体的に取り組む場を設ける。 ・「自学学習の時間」を設けるなど学力向上への取組を行うとともに個に応じた指導の充実を図る。	B	生徒への学校評価アンケートでは「熊農に入学してよかった」の回答が93.3%に対し、「目標を持って学校生活を送っている」と回答した割合が80%であった。教職員も授業評価を実施し、授業改善や学力向上の取組等も行っているが、将来の見通しをもつ投げかけが今後更に必要である。
		学校の魅力を発信することで意欲的な生徒の入学を促し、各学科の入学志願者を増やす	・前期選抜(2.57)、後期選抜(1.57)の倍率を昨年度より向上する。 ・HPやすぐ一の活用、メディアによる発信を行い、本校の魅力を発信する。	・学校説明会や体験入学への参加を促し、受験生の本校教育についての理解を図る。 ・KSH等の各取組や生徒募集について職員間で連携協力して行い、特色や魅力等の情報発信を丁寧に行う。	A	・学校説明会や体験入学では丁寧かつ分かりやすい説明を行った。体験入学に参加できなかった中学生に向けては個人対応をするなど丁寧に、対応した。本年度前期選抜では2.88倍と昨年より多くの出願状況であった。 ・KSH等の取組では、大学や企業等と連携した特色ある教育を発信することができた。

	業務改善と働き方改革	業務内容の精選と見直しを行い、長時間勤務を是正する	組織全体の情報共有と連携を重視し、業務内容の改善及び廃止を行う。	・事前資料の配付を行うなどの工夫で会議時間の短縮や情報の徹底を図る。	C	資料の事前配付を図り、業務内容の改善等も各部署で進めたが、情報共有の徹底や長時間勤務の是正にはつながらなかった。
		全職員の働き方への意識改革と働きやすい職場環境をつくる	・長時間勤務の要因を明らかにし、慢性化している職員の勤務状況を改善する ・年間年休取得15日以上を目標として、時間外勤務を前年度比で全職員平均10%削減する。	・長時間勤務（2ヶ月連続80時間以上）の職員と随時面談し、手立てと目標を明確化する。 ・各部署での声掛けにより業務の平準化を図る ・職員間で働き方への意識を高揚を図り、風通しのよい職場をつくる。	B	業務改善に向けてワークショップや次年度に向けた提案など進めることができた。また、職員が年休を取得しやすい環境づくりを進め、目標を達成した。時間外については、全体で1時間程度の改善は見られた。職員への学校評価アンケートでは、「超過勤務の解消・業務負担軽減を意識した組織的連携・協働をしている」の項目においては43.9% (R5) ⇒ 64.9% (R6) と上昇した。
学力向上	新学習指導要領における観点別評価及び指導	指導と評価の一体化	・生徒が意欲的に授業に取り組む工夫。 ・教育課程実践検証協力校事業における実証データの整理や研究授業の検証を行うことで、授業の充実を図る。	・各教科でICTの活用や評価の観点を明記したシラバスを作成し、生徒が見通しを持って学習できる環境を整備する。 ・観点別評価を生徒の今後の学習取組に繋げる材料とする。 ・定期考査のみに頼らない学習評価や形成的評価・教育課程実践検証協力校事業において各学科研究主題に即した取組を行う。	B	・ICT活用授業は、ほとんどの授業で実践できている。 ・新学習指導要領における観点別評価については、3年目を迎えている。教師と生徒も、年間計画や単元を見通した学習に取り組んでいる。今後は、生徒の学習に対する評価する機会を、より充実させる統一的な見解を持つことが求められる。 ・教育課程実践検証協力校として、教科「農業」における授業研究や合評会を実施し、評価のあり方や授業改善に関する検証を行うことができた。

		授業改善	・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。	・公開授業や研究授業週間を設定する。 ・生徒による授業評価アンケートを年2回実施する。	A	・公開授業は保護者や同窓生、外部の方々に来校し、生徒や学校の姿を見ていただいた。 ・計画通り2回の授業評価アンケートを実施し、授業改善に繋げることができた。
		基礎学力の向上	自学自習の時間で基礎力診断テストの「デジタルドリル」等を活用し、基礎学力の向上を図る。	一人一人が自主的に学ぶ「自学自習」の時間を設定する。	B	・年度中に自学自習の時間を設定することができた。 ・デジタルドリルは、年度途中からの実施であり、現在取り組んでいる最中である。成果及び課題を今後検証していく。
キャリア教育 (進路指導)	計画的・系統的進路指導	進路実現のための必要な学力が身につけている	基礎学力診断テスト等での成績を向上させる。 小論文や面接での表現力を身につける。	各試験の結果の振り返りや面談で、次の目標をたて実現に努力する。 。キャリアパスポートの活用。 講話や講演等を通じて表現方法を身につける。	B	各試験での結果を面談等に利用し、クラス別・個人別両面で学力の状況を理解した。 キャリアパスポートの記録を利用し、志望理由書などの進路への取り組みに活かした。 自己表現の仕方を身につけ、就職進学の面接等で活かすことができた。
		専門学科の学びを進路に活かしている	自分の学んだことや強みが活かせる進路を実現する。	専門を活かせる進路先の研究を充実させる。	B	多くの生徒が専門の学びを活かした進路希望を実現している。
	キャリア教育の充実	自分の適性を理解している	得意・不得意を理解し、どの分野が自分に適しているかがわかる。	適性検査の活用。 キャリアパスポートの活用。 キャリアサポーターとの面談の実施。	B	インターンシップ、農家現場実習を2学年時に実施し、自己適性を考える良い機会となった。また、キャリアサポーターとの面談を実施することにより、さらに高まった。
		コミュニケーション能力を向上させる	自分の考えを相手にわかりやすく、表現し伝えることができる。	面談等を利用して、相手に考えを伝える練習をする。	B	インターンシップ等において、相手方にアポを取る際や現場の方とのコミュニケーションを取ることでさらに向上している。
生徒指導	ルールを守る生徒の育成	ルールやマナーを守り安全・安心な生活を過ごしている	・学校評価アンケートにて、校則の遵守の割合を95%以上とする。	・ホームルーム、学年集会、全校集会等での確認と、個別指導を行っていく。	B	アンケートの数値からは達成できているが、生徒の自覚ある行動とまでは言いがたいところもある。とりわけ整容指導については、今後も個別に丁寧に対応して

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な指導を含め同様の内容での指導を繰り返さない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の課題を明確にし、学校と家庭（保護者）双方が連携、協働し生徒支援にあたる。</li> </ul>	C	いくことが必要である。 事案は異なるが繰り返し指導を受ける生徒が全体の4分の1いた。生徒に関係する教職員によって、各々指導と支援はできているが、学校全体での組織的指導とまでは至らなかった。今後、指導後の支援の部分を丁寧実施していく。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校中の交通事故・違反件数を全校生徒の3%（25件）以内とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期の登校指導の実施をはじめ、登下校時の状況の把握と対応を速やかに行う。併せて保護者との情報の共有を図り、家庭での指導をお願いする。</li> </ul>	A	各種登校指導を実施した。事故発生後、直ちに事故の様子、事故に繋がらない対応策等をすぐるでの配信やHR、全校集会時での周知等も行い、発生件数は10件と数値的には達成している。
生徒会活動の充実	各種委員会活動や部活動が活発に活動している	全ての各種委員会、部活動等が活動実績を記録する。	活動実績のない組織に対して、協働やボランティアの斡旋をして活発化を図る。		B	学校評価アンケートでは生徒の70.8%が、保護者の80.1%が三部会や部活動に積極的に取り組んでいると回答。いずれも昨年度を上回っている。また、部活動で多数受賞者が出ている。ボランティアに関しては生徒の47.7%が積極的に参加していると回答しているが、前年度より2%低下している。日程の影響も考えられる。googleclassルーム等を活用し、広く生徒に呼びかけを行い参加の機会を増やしているが、実際の参加に結びついていない。
	学校行事について生徒が積極的に参加し、安全安心に実施できるようにする	学校評価アンケート「学校行事に積極的に参加し、安心安全に実施できている」との評価が95%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事の目的を生徒に周知し、積極的に参加できるようにする</li> <li>・職員や生徒会運営委員による観</li> </ul>		A	学校評価アンケート結果では、生徒の95.7%が「学校行事に積極的に参加し、安心安全に実施できている」と回答。学校行事の実施前に趣旨説明を行い、大きな混乱なく終えること

				察や巡回によって事故やトラブルを未然に防ぐ。		ができた。安全を最優先する姿勢に対しては生徒から疑問の声もあったので、次年度の生徒総会に向けて学校行事のあり方や実施規定の検討・見直しを行っていききたい。
人権教育の推進	安心して過ごすことのできる学校づくりのための人権教育	職員が人権意識を高め、連携し生徒理解にあたる	・年2回の全体での職員研修を実施する ・個別に2回の校内外の研修に参加する。	・学校の実態に即した職員研修を提案し、研修を受けやすい体制をつくる。	A	年2回の外部講師を招き職員研修を実施した。また、校外研修への参加も各学科・教科の代表が参加することができた。
		生徒が互いに認め合い、尊重し合うことのできる関係づくりについて考え、行動できるスキルを伸ばす	生徒の状況に即した人権学習を提供する。	・年3回の人権LHRを通じた学習機会を設ける。 ・生徒人権委員会の取組をもとに学校全体で人権意識を高かめる活動を行う。	B	生徒の実態に即して内容を見直し、年3回の人権LHRを実施することができた。また、人権委員会の活動としてテーマを決めた学習・校外研修への2回の参加など、活動の幅をひろげることができた。
いじめの防止等	未然防止への取組	安全・安心な学校生活を送れている	・「いじめを受けた」生徒数を県平均（1%）以下とする。  ・いじめが疑われる内容であっても、情報の共有をすすめ、早期対応につなげる。	・数値に固執せず、積極的認知をすすめ、いじめを受けた生徒に寄り添い改善する。 ・関係職員への情報の共有や、関係職員へをはじめ全職員への周知を行い、全職員で対応する。	B	「いじめを受けた」生徒数が1学期7名、2学期5名であり、各学期での人数では目標以内の値と言えるが、総計では1%は超えている。これまで生徒に寄り添い丁寧な対応を進めてきているが、今後も、いじめが疑われる内容であっても情報の共有と早期対応を心がけていく。
	早期発見と迅速な対応	発生から対応、解決までが迅速且つ組織的に行うことができる	いじめ対応マニュアルに沿って迅速な対応をする。	・いじめが疑われる場合でも、関係職員の情報共有を行い、対応策の立案と対応を進めていく。 ・状況に応じて、いじめ問題対策委員会を開催と協議の上全職員で対応する。	B	心のアンケートをはじめ、担任、保健室、教育相談からの情報などが、早期に情報集約担当者につながることはできたが、円滑に組織的な取組とまでには至らなかった。「気づき」を必要とところで共有し、具体的に誰が何を進めていくのかまでも、関係職員全員が理解して取り組めるようにしていく必要がある。

地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と本校との連携	地域と連携した学校運営や教育活動を行う	・学校運営協議会や学校評価アンケートを活用しよりよい学校運営につなげる。 ・地域と連携した魅力ある教育活動を実施する。	・学校運営協議会での意見や学校評価アンケートの集約。 ・地域と積極的に関わりを持ち、本校教育の理解を図る。	A	学校運営協議会の委員との意見交換やアンケート等によりよい学校運営に反映させることができている。地域と連携した避難訓練を本校で実施することができた。また、各学科の特色に併せて地域と連携した取組を実施した。
	生徒の防災意識の高揚	防災教育をとおして生徒自ら考え、行動できるようにする	大規模災害や校内での危機管理等において生徒が自主的・協働的な行動ができる。	防災教育LHRや避難訓練、防災意識を高める授業など啓発に努める。 ・職員にも防災意識や校内での危機管理など研修等で理解を深める。	A	防災に関する備えや取組から本年度も防災甲子園に農業土木科の取組が表彰された。また、防災LHRを実施することで、生徒の防災意識を高めることができた。保護者及び職員の安全管理や危機管理等に関するアンケートでは90%以上が高評価であった。
特色ある取組	生徒が輝き活躍する教育充実	各学科の専門学習に意欲的に取り組むことができる	・アグリマイスター顕彰制度等による高校3ヶ年の学びを評価する。	・アグリマイスター顕彰制度を通じて、生徒全員が日頃の学習で培った知識や技術・技能への自信を深める。	B	アグリマイスター顕彰制度においてプラチナ7名、ゴールドが15名、シルバーが21名、取得予定である。学科によって取り組みの差があるため、全学科で意識を高めていきたい。
			・熊本スーパーハイスクール(KHS)構想リーディング型に取り組む。	・各学科・教科等でプロジェクト学習、課題研究を充実させ・深化させる。	A	「県立高校学びの祭典」においてICTを活用した農業教育、商品開発で地域の魅力発信を行った取組を紹介した。また、「地方創生☆政策アイデアコンテスト」において、畜産科の「養豚ガールズによる地方創生プロジェクト」が地方創生担当大臣賞を受賞する等、成果が上がっている。
	将来の農業経営者の人材育成活動の充実	熊農ゼミ等を通じた農業経営者育成活動に取り組み、将来のビジョンを描くことができる	将来の農業経営に必要な資格取得やインターンシップ(農家現場実習)等に取り組む。	・農家現場実習、農業関係企業等の視察研修や、狩猟免許等の農業関連の資格取得を目指す。	B	熊農ゼミを年間とおして実施することができ、将来、農業経営者を目指す生徒の農業への意識が高まった。また、狩猟免許には5名の生徒が挑戦した。

農業の魅力発信と地域貢献活動の推進	農業教育を通じた地域貢献活動と学校HP等によるPR活動に取り組むことができる。	・全学科による開放講座の実施及び交流活動する。	・公開講座等を通し参加者に学びの場を提呈するとともに熊農の魅力を伝える。	B	開放講座には多くの地域の方に参加頂いた。また、子ども達の参加もあり、本講座をとおしてさらに熊農の魅力を伝えていきたい。
		・学科の魅力ある学習や取組を積極的に学校HPで発信する。	・学習活動や農産物の販売など全学科において、定期的にHP更新力発信に取り組む。	B	各学科とも日々の教育活動で良い取組をしているが、HPによる情報発信が学科によって差があり、今後の課題である。
		・地域企業と連携し地元を町おこしを目的として、商品開発の提案し、HP等とおして情報を発信する。	SDGsを意識した商品開発を地元企業と連携し、地域の祭りや各種イベントで販売し情報を発信する。	B	SDGsを意識した商品開発を地域の商店と連携し課題研究の一つとして取り組むことが出来た。また、地域の祭り・イベントに参加し本校の魅力発信に繋がった。
部活動の充実	部活動を通して生徒の学校生活の充実と心身の育成を図るとともに地域から応援される熊農生になる	・部活動の指導の充実を図り、職員指導の下、メリハリのある活動を行う。 ・活動を情報発信することと、地域からの熊農生への理解を図る。	・部活動の魅力をもとに職員が部活動の指導に参加できる環境をつくる。 ・部活動の取組や成果をHPやメディアを活用して情報発信する。	B	業務との兼ね合いで職員への負担もあるが、各部熱心な取組を行っている。全国的な活躍につながるなど学校のPRにも貢献している。今後、更なる充実につながるよう適正な配置や環境作りに努めていく。

#### 4 学校関係者評価

- ・生徒の学校評価アンケート結果が全体的に前向きな回答をしていることは評価できる。継続して生徒が目標を持って取り組めるように更に連携・協力をすることが大切である。
- ・日頃からしっかりとコミュニケーションづくりをすることで職員間の情報共有が必要だと感じる。
- ・本校では行事等の度に振り返る機会（アンケート等）をもうけて、改善に向けて努力する体制ができていると感じている。
- ・勤務時間のメリハリがつくと更によい。
- ・新課程になり3年が経過したことによる検証が必要。
- ・業務量の削除と平準化が必要だと感じる。
- ・生徒の実態に合った行事の精選及び内容変更が必要である。
- ・生徒の多様化に伴い生徒支援や授業の在り方を丁寧に進めていくことが求められる。生徒の学力差があるために、下位層にも上位層にも学力向上が図れるような手立てが必要だと感じる。

#### 5 総合評価

- ・具体的目標を持ち方策を実施し、努力されたことから生徒の「熊農に入学してよかった」との回答が93%強あったことはうれしいことである。
- ・入試の倍率も上昇していることは中学生から行きたい学校として考えられているからだと感じる。一方で、アンケートでは業務負担を考えている職員も多いように思われる。
- ・1年のころから計画的に進路指導が行われていることが4年制大学進学等の成果につながっている。
- ・地域で生徒を見かけるときに小学生や中学生から見られているという意識を持ってもらえればと思う。（制服の着こなしへの指摘）

- ・生徒支援に関しては保護者の協力も不可欠である。また、繰り返し指導を受ける生徒に対しては、職員全体で情報を共有して取り組むことが大切だと思う。
- ・SNSでのいじめなど、なかなか見えにくくなっているため、様々な方法で情報収集し、共有を図り、早期対応できるようお願いしたい。
- ・「いじめ」という言葉を「暴行」「脅迫」「傷害」「強要」「名誉棄損」「器物破壊」などと具体的な犯罪名に置き換えて、まず警察対応を検討していただくようにし、生徒たちにもそれを周知しておくことで軽はずみな行動は減るのではないかと思う。
- ・特に今年度の地域の防災訓練は、事前準備から当日の運営まで素晴らしかった。ノウハウを他の地域へも広げてもらえると助かる。
- ・農産物販売会等で一般の方々が高校に足を運び、生徒と交流を図りながら購入することができる。このような地域交流は農業高校ならではのと思うので、これからも大切にしていきたい。
- ・農業高校として各学科の専門学習に力を入れておられるのがよくわかる。部活動も報道等での活躍を見聞きして担当の先生、生徒の努力の賜物だと思う。

#### 6 次年度への課題・改善方策

本校の課題として、「生徒の基礎学力の定着」「指導と評価の一体化による授業改善」「多様な生徒への支援・指導」「業務改善」等があげられる。

どの課題も即改善とはいかないが、引き続き「風通しの良い職場づくり」を推進し、職員の意見や相談をお互いにできるように努め、特に管理職と職員が一方通行にならないようにトップダウンとボトムアップを両立し、改善を図っていく。

また、運営委員会等での決定事項を迅速に各部・各科での情報共有の徹底を図り、組織的に機能できるようにする。

「業務改善」においては業務の平準化に努める。また、今年度中に生徒17時完全下校日課を試行予定で、次年度より特定曜日に設定することでメリハリのある勤務ができるよう改善を図る。

職員に加え、PTAや同窓会、地域等と連携を図り、学校の活性化や改善に繋がるよう努める。警察や児相との連携やSC、SSW等の活用で、生徒がより安心して学校に登校できる体制づくりを構築する。